

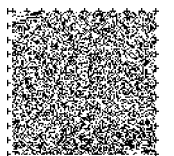
# りいぶる



表紙デザイン作者：スケノアズさん（イラストレーター、和歌山県紀美野町在住）

りいぶる★アイ 特集 「ことば」のなかに見えるジェンダー  
男女共同参画特別公開セミナー 上野千鶴子さん  
講座レポート  
「みんなに男女共同参画」提案事業

今号の  
注目記事



センターニュースりいぶるはSPコードにより文字情報を提供しています。情報は専用の読取装置で読み上げます。



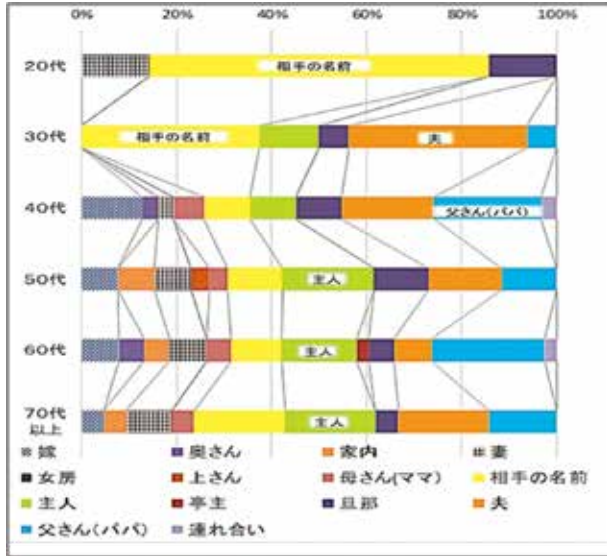
# 特集 「ことば」のなかに見えるジェンダー

普段私たちが何気なく使っている言葉。例えば「嫁」という言葉は、元々親が息子の妻を指して言う言葉でしたが、時代の流れのなかで、今では夫が妻を指して言う時にも使われています。言葉の中にあるジェンダー（社会的・文化的に作られた性別）を普段私たちはどんな風を感じているのでしょうか。“りいぶる”では来館者 100 人に簡単なアンケートをとってみました。また、アンケート集計結果について神戸大学名誉教授の朴木佳緒留さんから感想を寄せていただきました。

質問 1. 誰かと話している時に、ご自身の配偶者やパートナーのことをあなたはなんと呼んでいますか？  
(当てはまるものすべてに○をしてください。)

質問 2. あなたが普段使う言葉の中で、性差を感じるものは？

質問 1 の結果



回答者の年代内訳

20代	7人
30代	14人
40代	21人
50代	16人
60代	23人
70代以上	18人
無回答	1人
合計	100人

質問 2 の結果



※グラフはアンケート男女 100 人の回答を参考に作成したものです。

## 日本語は難しい・・・

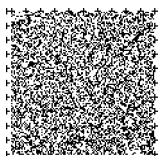
ほおのき かおる 朴木 佳緒留 (神戸大学名誉教授)



「ことばとジェンダー」は度々、取り上げられてきたテーマですね。コマーシャルや教育の場での問題がさまざまに議論されてきました。そんな中、私がいまだに困っているのは配偶者の呼称についてです。自分の配偶者は「夫」と言えばよいですが、人様の配偶者については「夫さん」「お連れ合い」「ご主人」などいずれもぴったりきません。英語であれば your husband と言っても、何の問題もないですが、日本語で「あなたの夫」と言うと、失礼な気がします。

アンケートでも、皆さん様々に表現されていますね。おもしろいのは、20 歳代の方は「相手の名前」が圧倒的に多く、30 歳代になると「名前」の他に「夫」が登場し、40 歳代以上になると「父さん (パパ)」が登場するなど、呼称の多様化が生じる点です。日本では子供中心の家族関係が築かれ、配偶者呼称にも反映されるのでしょうか。50 歳代より上の世代では「主人」が目立っています。「主人」に違和感をもつ人は少なくないと思いますが、「主人」と言っている方は、文字通りの master という意味ではなく、固有名詞のようにして使っているかもしれません。それにしても、世代差が鮮やかに表れており、ジェンダーの在り方 (受け止め方) が変わってきていることが良く分かります。

もう一つ、おもしろいのは「性差を感じることば」のトップ 5 です。未亡人、女医、嫁ぐ、寡婦、やもめ、の順に多く挙げられています。いずれも対語を見つけ難いことばですね。辞書では、「やもめ」は「配偶者のいない男、または女。夫をなくした女を『女やもめ』、妻をなくした男を『男やもめ』と区別することもあり、前者は『寡婦』、後者は『鰥夫』と当てる。」と説明していますが、日常語では「やもめ」は男性に対して述べられることが多いですね。また「女医」の対語は「男医」ですが、日常では「男医」という表現は稀ですね。対語が明確ではないことばには性差を感じる人が多く、男女のジェンダーは非対称であることが示された結果と受け止めました。アンケートに回答した皆様はそこを見抜いた人たちと思われ、感服です。



# 自分らしく生きよう

—社会を変えるのは、私たち—

講師：上野千鶴子さん

(東京大学名誉教授・NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)

令和3年2月19日(金) 19:00～20:30 和歌山ビッグ愛 1階大ホール

講師の上野先生は、穏やかな語り口でこれまでの日本の男女の不平等を斬りながら、時にユーモアを交え、明快に、**社会を変えるために私たちができること**についてお話しくださいました。

講演の冒頭、講師は、講演会のサブタイトル「—社会を変えるのは、私たち—」は実際に今起きている問題に当てはまることだとし、Me Too 運動で、若い女性の隣で若い男性が「僕らの問題だ」と声をあげたことも歓迎すべきことと話されました。

次いで、ウーマンリブから半世紀がたち、フェミニズムが“変えたこと”、“変えられなかったこと”、“これから変えること”に分けて語られました。

“変えたこと”として、かつて男性週刊誌に『職場の潤滑油』と書かれた「セクハラ」も人権侵害であること、「痴漢」は犯罪であること、そして「DV」に対する認識が広まったことをあげられました。**女性の経験の言語化や理論化、経験を言葉で定義することは、被害者が「私は悪くない」と確認できる大きな効果がある**と説明されました。

“変えられなかったこと”は、男女の賃金格差をはじめ、格差社会を生んだことをあげられ、家事、育児、介護などのケアワークは女性のただ働きで支えられてきたものであることを指摘されました。加えて、ケアする仕事の給料の低さも問題だとされ、その結果「金の力は権力」となり、男女の給与の格差で「力」の差が生まれたと話されました。また、コロナ禍の女性への影響として、DV被害の増加、非正規雇用者に女性が多いために女性が職を失い、女性自殺者が8割増となったことや、その中に若い女性やシングルマザーが多く含まれていること、持病のある子供を自主休校させたために仕事に行けなくなった女性への保証がないなどの事例をあげられ、これらのことは**コロナ禍によって急に起きたものではなく、以前からの問題が表面化しただけだ**と話されました。さらに、非正規雇用率について、この10年間に女性の就労率は上がったものの、その6割は非正規雇用であることを示され、背景には夫一人の収入では世帯を維持できない事情があると解説されました。しかし、これら“変えられなかったこと”も有権者である私たちが選んだ議員が決定している結果であり、私たちにも責任があることに言及されました。

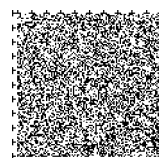
“これから変えること”としては、「墮胎罪の廃止」や「夫婦別姓選択制の導入」、男女の賃金の不平等を是正する「同一労働同一賃金」、「クォータ制(※)の導入」などをあげられました。政治を変えれば社会が変わるが、女性が立候補しようとする時、家の中で妻が夫より上に出てはいけないという意識があり、それが家庭内抵抗勢力となって、女性の政治分野への参画を阻むと指摘されました。それには、「男だ」「女だ」とリーダーに性別を問わない**程度に民主主義が成熟することが必要だ**とも話されました。

そして、私たちが、加害者にも被害者にも傍観者にもならないためには、その時その場でイエローカードを出すことが重要で、その一つひとつが成功体験となることや、「沈黙は同意であり笑いは共犯である」こと、「#わかまえない女」、「#めんどくさい女」、「#うるさい女」になることなどをあげられました。

最後に自身の東大での祝辞から、**人はどんな人も弱者として生まれ、弱者として死ぬ。人はずっと強者のままではいられないから、強がらず弱さを認め支え合って生きていくことが大事だ**と結ばれました。

自分らしく生きられるように、私たち自身が社会を変えていくための大きな“力”をもらった90分間でした。

※「クォータ制」:「割り当て」という意味。あるポストや役職において一定数を女性に割り当て、男女の偏りが出ないようにする仕組み。



“りいぶる”やさしいジェンダー講座

①「自分らしく生きよう！」  
令和2年10月3日(土)

②「女性も、あらゆる分野で活躍できる！」  
令和2年10月17日(土)

会場：“りいぶる”会議室A

“ジェンダー”について広く知ってもらえるよう2回連続講座を開催しました。①では、講師は男らしさや女らしさなどジェンダーによる偏見をあげながら、ジェンダーとは社会的・文化的性差であり変化するものであると説明され、支配、暴力、差別、ジェンダーなどの外圧

を押し返す内面の力（エンパワメント）で自尊心や自己肯定感を高めることで「自分らしく生きられる」と話されました。

②では、講師が衆議院議員における女性比率は9.9%で、女性議員が増えると社会がどう変わるかや、女性議員を増やす方策などを紹介されました。また、ゲストスピーカーが市民活動を経て議員となったいきさつや家族との葛藤などを率直に語られました。大塚さんの気負わず自然体で政治に向き合う姿にふれ、政治参画が少し身近に感じられました。



＜講師＞  
市場恵子さん  
(社会心理学講師  
カウンセラー)

＜ゲストスピーカー＞

大塚愛さん  
(子ども未来・  
愛ネットワーク代表)



＜講師＞  
中西理予さん  
(開業助産師)



一助産師さんと考えよう  
子供への性と命のつたえ方

令和2年10月4日(日)

会場：海南市海南保健福祉センター  
2階多目的ホール

命と性の大切さと正しい知識を、まずは大人が学び、それを子供たちに伝えていくことを目的に講座を開催しました。

講師は妊娠と出産の仕組みを映像やイラストで説明したのち、男女がお互いの身体のことを理解し、相手を思いやれる人であってほしいと

話されました。またプライベートゾーン（水着で隠れる部分）は自分の大切な部分なので、子供たちには人に触らせてはいけないし、自分も見せたくない、触られたくないという意思を人に伝えられるようになってほしいと話されました。

家庭で性について語り合える環境ができていると、万が一、性被害にあったときにも恥ずかしがらずに伝えることができるため、普段から生命や性について親子で気軽に話せるようにしておいてほしいなどの思いも語られました。



男性が介護するというこ  
～新しい介護社会のなかで～

令和2年12月5日(土)

会場：“りいぶる”会議室A

介護離職する男性が20%にもものぼる社会背景を通して、新しい介護との向き合い方を考える機会となりました。

講師は介護をする人が従前の女性から今は男性、高齢者、認知症や障害を抱える人、子や孫等の若者と多岐にわたる状況をあげ、介護年数の長期化等、現行制度では対応できない新たな

課題を説明されました。今後の介護として、子育て、仕事、通院等をしながらの「ながら介護」の提唱や、介護のある暮らしや働き方を「社会の標準」にする必要性を話されました。介護の負担を感じる介護者ほど介護に喜びを感じるという介護者の「両価性」を示し、介護はもっと深い人生の扉を開くかもしれないと結ばれました。

参加者からは「50年前の歴史もふくめて介護保険への時代の流れが理解できた。」「介護者の健康が要介護者のためにもなる。」などの感想をいただきました。

＜講師＞  
津止正敏さん  
(立命館大学  
産業社会学部  
教授)



＜講師＞  
あんどうりすさん  
(アウトドア  
防災ガイド)



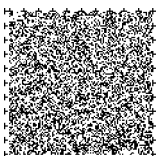
やらなければではなく、  
“やってみたい”に変わる防災講座

令和3年1月31日(日)

会場：紀の川市打田生涯学習センター  
視聴覚室

ジェンダーの視点からアウトドアの知識や技術を用いて考える防災講座を、会場とオンラインの両方で開催しました。オンライン出演された講師は、「防災への取り組みを日常生活そのものに取り入れてほしい」と話され、普段からLINEアプリを使用して、ハザー

ドマップの確認など災害時の情報を得ることやコロナ禍において避難所に行かない選択肢も視野に入れておくようにと話されました。また、避難所で起こりやすいとされる性被害に服装、性別、年齢は関係なく、被害にあった人には「あなたは悪くない」と繰り返し伝えることが大切と語られました。最後に、常に持ち歩くものとして、①携帯電話（スマートフォン）②ホイッスル ③LEDライト ④マルチツール ⑤知恵のある自分の5点を挙げられ、これに加えて携帯トイレを紹介されました。



# 魅力ある女性リーダー養成講座

講座レポート

## Part. 1

### スキルアップ講座 ～アサーティブコミュニケーションを学ぼう～

日時：令和3年1月22日（金） 会場：“りいぶる” 会議室 A

講師：谷水美香さん（ヒューマン・トータルバランスサポートりんど）



講師はまず、アサーティブネスとは、適切な自己主張であると同時に相手の意見にも耳を傾けるものだとし、伝え方の違いで状況が変わることを説明されました。そして自分自身でいることや自分を表現することなど自己表現の「権利」や、自分の望みに誠実になる・相手によって態度を変えない・コミュニケーションの責任は自分と相手に半分ずつある・伝えたいことは「私」を主語にして簡潔にする、などの実践の心構えを学んだ後、参加者には表現のクセやパターンを振りかえってもらいました。クセの型は、攻撃型・受身型・操作型・アサーティブ型とあり、私たちは日頃どの型の表現も使っていますが、気がついた時だけでも「アサーティブ型」に変えてみると状況を好転することができるかと話されました。

後半は参加者が具体的に伝えたいことを整理し、それに基づきロールプレイを行いました。参加者からは「日頃から伝え方が難しいと思っていたので、大変勉強になりました。」「すぐに実践できそうなので、活かします！」などの声が聞かれました。



## Part. 2

### ①リーダーシップ講座

### ②ロールモデルによるパネルディスカッションと交流会

日時：令和3年2月2日（火） 会場：“りいぶる” 会議室 A

講師・コーディネーター：本庄麻美子さん（和歌山大学経済学部講師・キャリアカウンセラー）

パネリスト 野村侑加さん（協和プレス工業株式会社 管理部 部長）

多田三千代さん（株式会社ナカエ マネージャー兼 CS チーム チームリーダー）

田村織江さん（太洋工業株式会社 製造部生産企画課 主任）



①の講座では、講師から女性リーダーの必要性の背景には、日本が少子高齢化が加速している現状にあると話され、経済を発展させるには・男女ともに働く ・短時間で働く ・違う条件の人たちで働くことが重要であり、人生100年時代を迎える今、1つの仕事だけをするのではなく、転身や複数のキャリアを積み、本業以外に副業や地域活動などに関わりながら働く形が主流になっていくと説明されました。そんな社会において、現状より将来を見据えた「変革型リーダー」や相手（部下）を思いやり奉仕し導いていく「サーバント・リーダー」には女性が向いていると話されました。

②では、実際にリーダーとして働く3人の方に、今の役職につくまでの話をしていただき、参加者からの質問に答えていかれました。ポジティブ思考で仕事に取り組むことや、同僚同士のコミュニケーション量を増やすこと、頑張ったことを思い出し自分の成長を感じて欲しいなど、実体験をもとに話されました。参加者からは、「自分なりのリーダー像を作ればいいのだと思い、気持ちが軽くなりました。」「パネリストの方のお話は大変参考になり、楽しく参加することができました。」などの感想をいただきました。

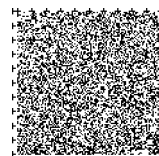
## 男女共同参画ワールド・カフェ ～大学生と社会人の本音ミーティング in 和歌山 2020～

昨年度までは大学生のみの参加でしたが、今年度は社会人（県女性活躍企業同盟参加企業・団体の社員等や県職員）にも参加してもらいました。はじめに「私の未来想像シート」へ働く上での優先順位などを記入し、講師が6種類の数字をクイズ形式で提示し、日本の男女共同参画の現状や経済・政治分野における女性の参画の遅れ、育休取得率及び家事育児時間の男女差などの現状を説明され、参加者は共通認識を持ちました。

そのあとワールド・カフェ方式で、テーマ1『男女でどのような違いや共通点があるか』、テーマ2『理想の未来の実現のためにできること』について話し合いました。テーマ2を実現するためには、選択できる環境を作ることが重要であり、選択するには学力や知識、経験、知見を広めることが必要などの意見が出ました。学生の参加者からは、「企業の方もいて先輩の意見として色々な話を聞けてとてもよかったです」などの声が聞かれました。

### ワールド・カフェって？

小グループで席替えをしながら議論を深めていく話し合いの手法で、お互いにも参加者全員で話し合っているような効果が得られる。



# 「みんなに男女共同参画」提案事業を実施しました

## 産前からの切れめのない子育て支援 プレママ・プレパパへ

### 「みんなで赤ちゃんを迎えよう！」

企画・運営：NPO法人 きのくに子どもNPO

①令和2年11月22日(日)

「パパと一緒にマタニティフォトを自分のカメラで撮ろう！」

②令和2年12月6日(日)「産前産後の母体のホルモンバランスについて」

③令和3年1月31日(日)「産後の生活について。パパはなにをすればいい？」

④令和3年2月7日(日)「エコー写真でスクラップブック作り」

⑤令和3年3月7日(日)

「ママとパパの手形アート 赤ちゃんがうまれたら完成するよ！」

助産師さんによるオンライン講座と先輩ママによるワークショップを行いました。アットホームな雰囲気の中、妊娠、子育て中の不安や悩みを相談しあえる機会となりました。

## 「ねばならない」を手放して、私らしく生きる！

令和2年12月26日(土) “りいぶる”会議室A

企画・運営：ファースト・ステップ

思い込みや「らしさ」からの解放、自身や他者を受容することをテーマに、「〇〇らしく」に捉われている自分の感情に気づき、向き合う機会を共有しました。前半は、自分自身を縛っている不自由さから解放されたつづつある3人から、どんな『ねばならない』を手放したか、そしてそれによって得たものについて話をいただき、後半は、話し手と参加者とのディスカッションを行いました。「自分を認めることの大切さを考えさせられた」「自分を縛っているものがあることに気付くことができた」等の声が寄せられました。

## にじわか\*知ってもらい隊 2020

### ～同性パートナーシップ宣誓証明制度について学ぶ～

#### 「和歌山でパートナーと一緒に住もらよ」

令和3年1月16日(土) “りいぶる”会議室A

企画・運営：NPO法人 チーム紀伊水道

同性パートナーシップ宣誓証明制度について、実際に制度を利用している当事者を講師に迎え、講演会を開催しました。初めにセクシュアル・マイノリティ/LGBTQに関する基礎知識について、続いて同性パートナーシップ宣誓証明制度について、説明がありました。質疑応答では参加者から質問が多数集まり、講師自身の経験を踏まえた具体的な回答を聞くことができました。制度について、まずは知ってもらう第一歩として貴重な場の提供になりました。

## “シンデレラからアナ雪まで”

### プリンセスストーリーから読み解く！

#### あなたの人生に潜む「女らしさ」の呪縛から自由になるう

令和3年2月11日(木) 田辺市文化交流センターたなべる

企画・運営：NPO法人 和歌山eかんばんにい

無意識のうちに「社会が求める女らしさ・男らしさ」にとらわれているということに気付くこと、また、自分らしく生きる自信を持ち女性の自立を考えるきっかけとしてもらうことをテーマに講演会を行いました。1930年代の「白雪姫」から2013年の「アナと雪の女王」まで、ビデオ視聴を取り入れながら、プリンセスの描かれ方が時代とともに変遷してゆく様を、ユーモアも交えた講師の解説で楽しく学ぶことができました。遠方の方も参加いただけるように、オンラインでも同時に配信しました。

## 育児休業取得男性等へのインタビュー掲載冊子の作成

企画・編集：ワーク・カフェ

県内に在住、勤務されている育児休業取得経験のある男性、男性への育児休業付与実績のある企業へインタビューを行い、冊子「パパだって育児がしたい！～育児をとって気づいたこと～」を作成しました。りいぶるほか、県内の主な所に配布しています。



来年度も提案事業を募集する予定です。皆さまのご応募をお待ちしております。(4月以降の“りいぶる”HPをご覧ください。)

## “りいぶる”図書室

### ☆スタッフおすすめ図書☆



### さよなら、俺たち

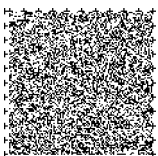
著者：清田隆之

出版社：スタンド・ブックス



男性が「男性である」だけで社会に与えられている“特権”の存在について、学生時代から数多くの恋愛相談にのってきた著者が自らの過去を例にあげながら男性目線で男性たちに警告を鳴らす。男性であるがゆえに女性に対して

加害者になりうることに戸惑う心情が描かれている。今まで聞けなかったこのような男性の声に賛同の拍手を送りたい。



### クソ女の美学



著者：ミン・ソヨン

訳：岡崎暢子

出版社：ワニブックス

クソ女(アマ)を“他人の視線より自分の欲望に正直に生きる女性”と定義し、外見や恋愛における差別、男性主導の性行為、同じことでも男性は許され女性は非難されることへの違和感など、社会における女性の生きづらさを可視化した漫画とエッセイで綴られたフェミニズム入門書。

プロローグの「私たちはただ、公平であることを願っているだけなのに。」という言葉に共感する女性は多いだろう。男性にも是非読んで欲しい1冊。

DVD

### ビリーブ/未来への大逆転



監督：ミミ・レダー

2018年 アメリカ

のちにアメリカで最高裁判事を務めたルース・ギンズバーグが弁護士への道を拓くまでの実話に基づいた感動作。

努力の末に名門ハーバード法科大学院を首席で卒業するも女性であることで法律事務所に就職できず、やむなく大学教授となったルース。しかし弁護士への夢を諦めきれず、史上初の男女平等裁判に挑み逆転勝訴を果たす。

ルースの甥が脚本を担当し、監督自身も女性差別を克服してきただけに説得力あり。

# 「男女でつくる元気な和歌山」ポスターコンクール最優秀賞



## 【小学生低学年の部】



たむらくるみ  
田村胡桃さん



(御坊市立御坊小学校1年)

## 【小学生高学年の部】



こばらみお  
小原海音さん



(和歌山市立川永小学校5年)

## 【中学生の部】



にしやまゆり  
西山友梨さん

(御坊市立河南中学校2年)



## 【高校生の部】



にしおんじみつき  
西陰地美月さん

(和歌山県立海南高等学校大成校舎3年)



## 11月12日～25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です！

“りいぶる”ではこの期間を「パープルリボンキャンペーン」とし、図書室には関連本の展示とパープルリボンツリーを置き、廊下には啓発の掲示と来館者の方に書いていただいたメッセージを飾りました。

メッセージには、「一歩踏み出せば必ず道は開けます。」「あなたは悪くない、勇気を持ってSOSを出そう！」などの思いが寄せられました。

\*今年度のりいぶるのテーマ「暴力から自由になって自分らしく飛び立つ女性」をイメージして、鳥が大空へ飛び立つ様子をデザインしました。



## SDGs (エス・ディー・ジーズ) を知ろう！ ②

### 達成目標

### 目標5. ジェンダー平等を実現しよう

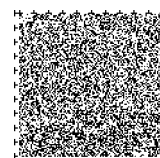
5 ジェンダー平等を実現しよう



- 5-1 すべての女性と女の子に対するあらゆる差別をなくす。
- 5-2 女性や女の子を売り買いしたり、性的に、また、その他の目的で一方向的に利用することをふくめ、すべての女性や女の子へのあらゆる暴力をなくす。
- 5-3 子どもの結婚、早すぎる結婚、強制的な結婚、女性器を刃物で切りとる慣習など、女性や女の子を傷つけるならわしをなくす。
- 5-4 お金が支払われない、家庭内の子育て、介護や家事などは、お金が支払われる仕事と同じくらい大切な「仕事」であるということを、それを支える公共のサービスや制度、家庭内の役割分担などを通じて認めるようにする。
- 5-5 政治や経済や社会のなかで、何かを決めるときに、女性も男性と同じように参加したり、リーダーになったりできるようにする。
- 5-6 国際的な会議※で決まったことにしたがって、世界中だれもが同じように、性に関することや子どもを産むことに関する健康と権利が守られるようにする。

※国際人口・開発会議 (ICPD) の行動計画、北京行動綱領とこれらの検証会議の成果文書

出典：公益財団法人日本ユニセフ協会 SDGs CLUB



自分を大切にするために…。 “りいぶる” 相談室  
**相談受付専用ダイヤル 073(435)5246**

相談は無料。専門の相談員がお話をうかがいます。  
 秘密は厳守です。ナンバーディスプレイは使用していません。

**総合相談**

家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

**電話相談**

- ☎(水)木(金)土(日) 9:00～20:30 (受付は20:00まで)
- 日 9:00～17:00 (受付は16:30まで)

**面接相談【予約制・女性のみ】**

- ☎(水)木(金)土(日) 9:00～17:30 (受付は16:30まで)
- 日 9:00～16:00 (受付は15:00まで)

**女性のためのカウンセリング**

女性が抱えるところの問題に女性カウンセラーが応じます。

**面接相談または電話相談**

- 金○○ 13:00～15:40 ※第2・第4金曜日
- 予約制、各日3人まで。  
 相談時間は1人40分。

**女性のための法律相談**

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

**面接相談のみ**

- 月3～4回 13:00～14:50
- ※日程は“りいぶる”までご確認ください。
- 予約制、各日3人まで。  
 相談時間は1人30分。

**男性のための電話相談**

職場のストレスをはじめ、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

- ☎(水)○○○○ 16:00～20:00 (受付は19:30まで)
- ※毎月第2水曜日  
 予約優先(匿名可)  
 相談時間は1人40分程度

性暴力について  
 相談したい…

**性暴力救援センター和歌山**  
 マイン  
**わかやま mine**

(和歌山県立医科大学附属病院内)

◆相談受付専用ダイヤル

オーエンキューキュー  
**073-444-0099**

- 相談 毎日/9:00～21:30
- 緊急医療 毎日/9:00～22:00

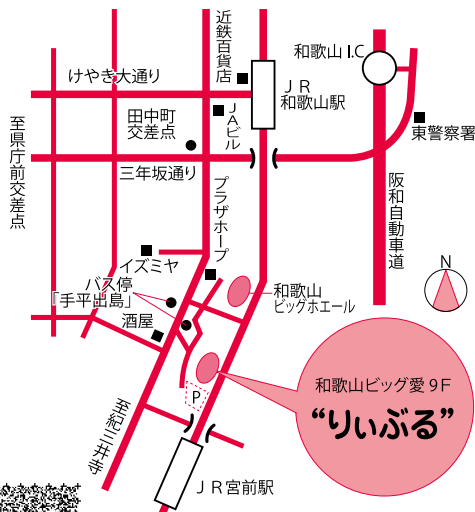
ここからからの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。  
 ひとりで悩まずに相談してください。



☆表紙デザインについて☆

作者のスケノアズサさんは、美大を卒業後、似顔絵作家として活動。新婚旅行で世界一周し、その時出会った山岳民族の暮らしに憧れ、帰国後、和歌山県紀美野町に移住。現在、毎日新聞にてイラストコラム「カントリースケッチ」と育児4コママンガ「ペコモコちゃん」を連載中。2019年大桑文化奨励賞、2020年第21回ピンポイント絵本コンペ最優秀賞を受賞。表紙の主人公は、自然の中で自由に暮らす双子の小人で、ウスイエンドウの収穫に大忙し。夕食は豆ごはん？ それとも豆スープ？ 春の訪れに胸を膨らます様子が描かれています。

“りいぶる”はフランス語で「自由な(libre)」という意味で、センターの愛称です。



◆発行 和歌山県男女共同参画センター “りいぶる”

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2  
 県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL (073) 435-5245  
 FAX (073) 435-5247

《メールアドレス》 libre@sirius.ocn.ne.jp

開館時間 火曜～土曜：午前9時～午後9時  
 日曜：午前9時～午後5時30分

休館日 月曜・祝日  
 年末年始(12/29～1/3)

りいぶる  検索

フェイスブックも更新中♪

一企画・編集 特定非営利活動法人 和歌山eかんばんにいー